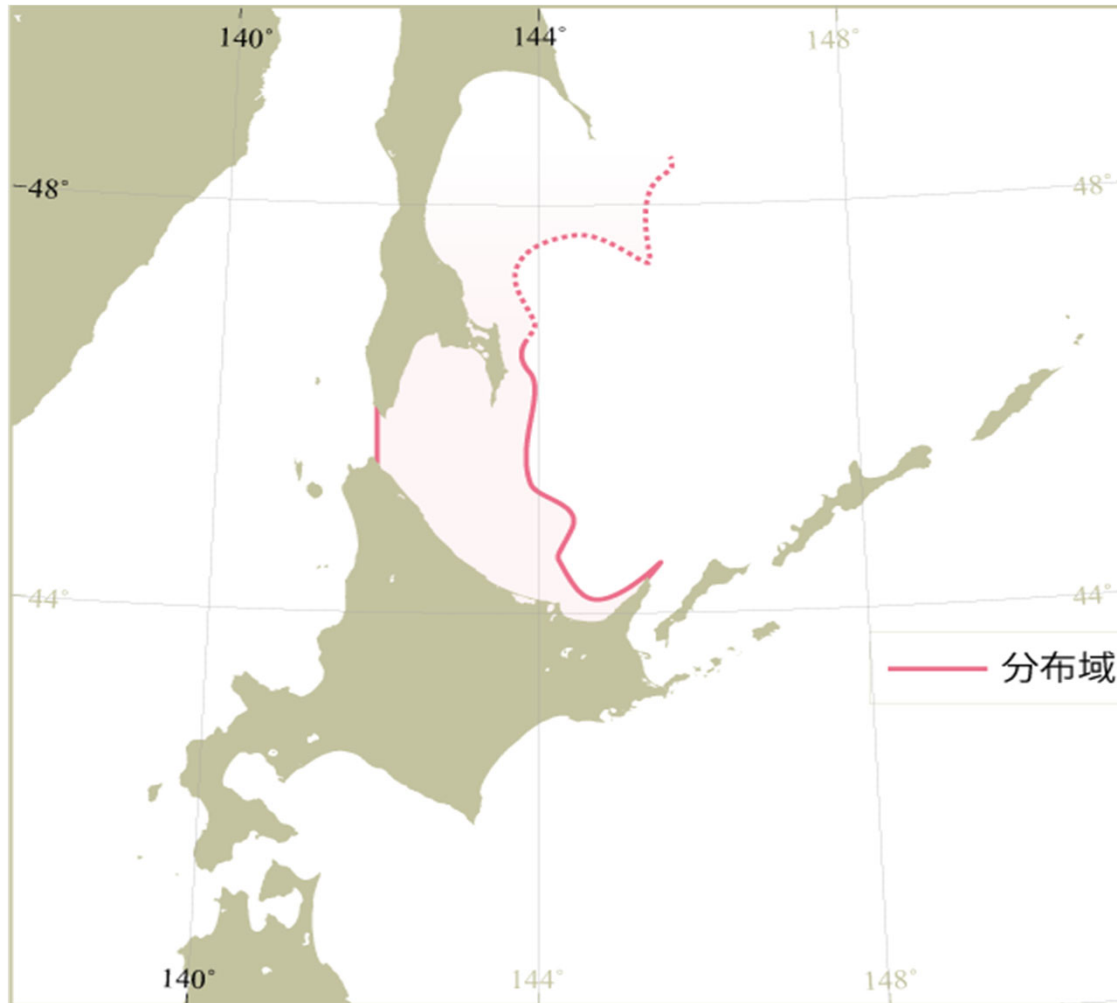




# マダラ オホーツク海南部 令和7年度資源評価結果

# 生物学的特性

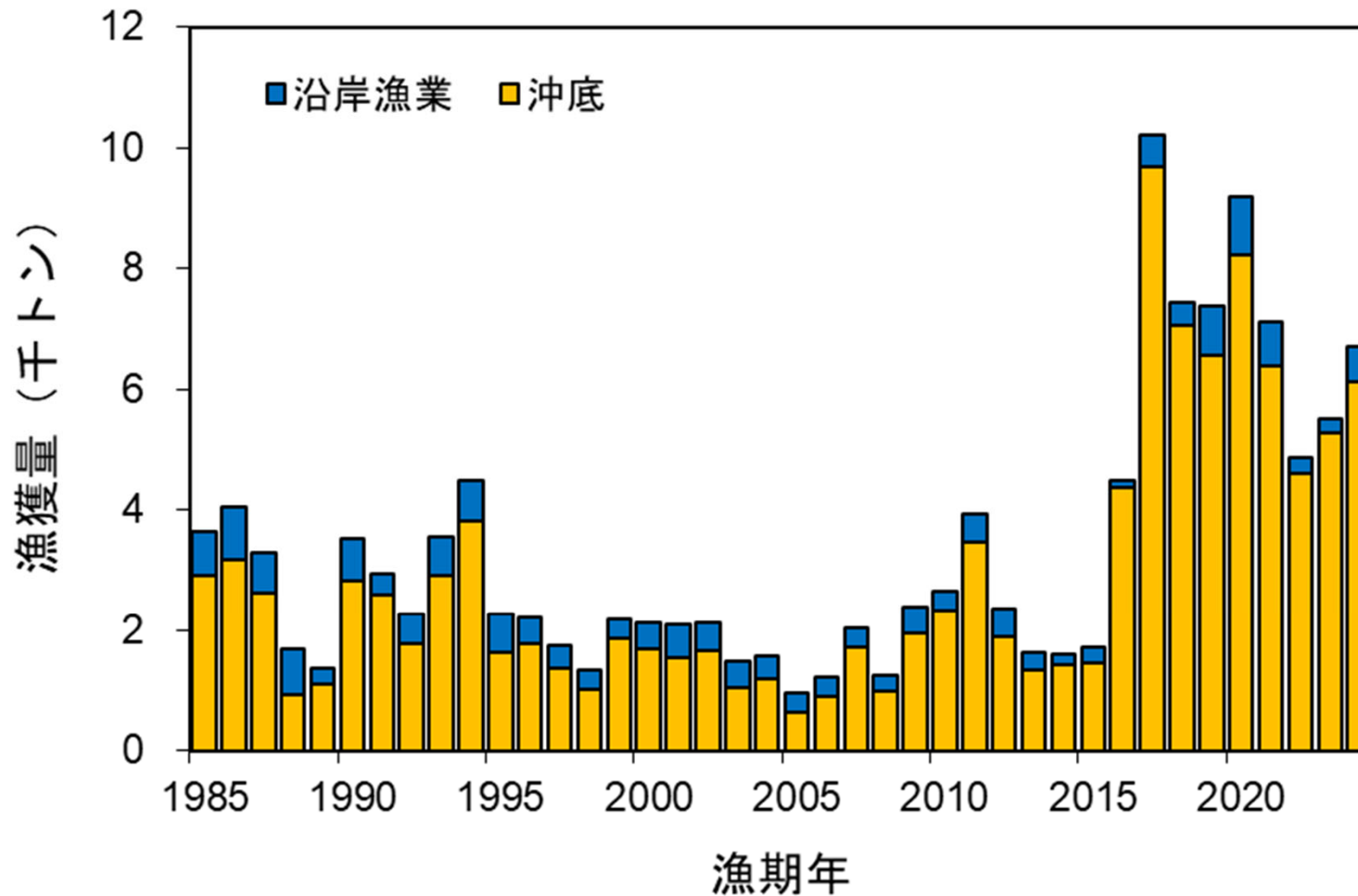


## 生物学的特性

- 寿命：8歳以上
- 成熟開始年齢：不明、雄で体長40cm、雌で体長50cm以上で成熟個体がみられる
- 産卵期・産卵場：1～3月、分布域全体に散在
- 食性：漂泳生活をしている幼稚魚期は主にカイアシ類、底生生活に入ってからからは主に魚類、甲殻類、頭足類、貝類、ズワイガニも捕食する
- 捕食者：海獣類

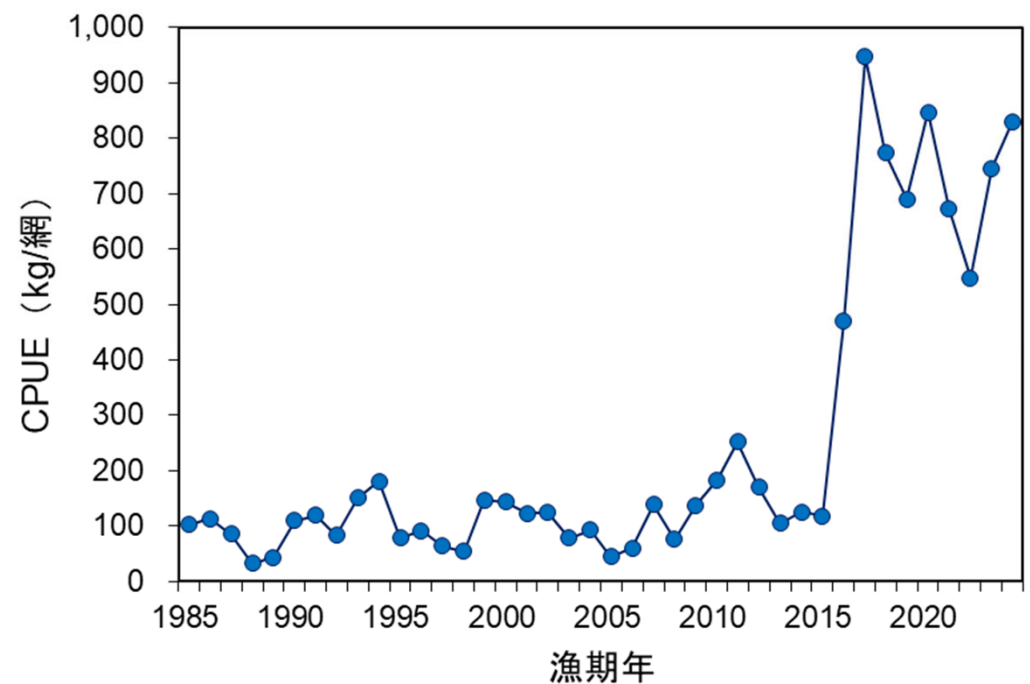
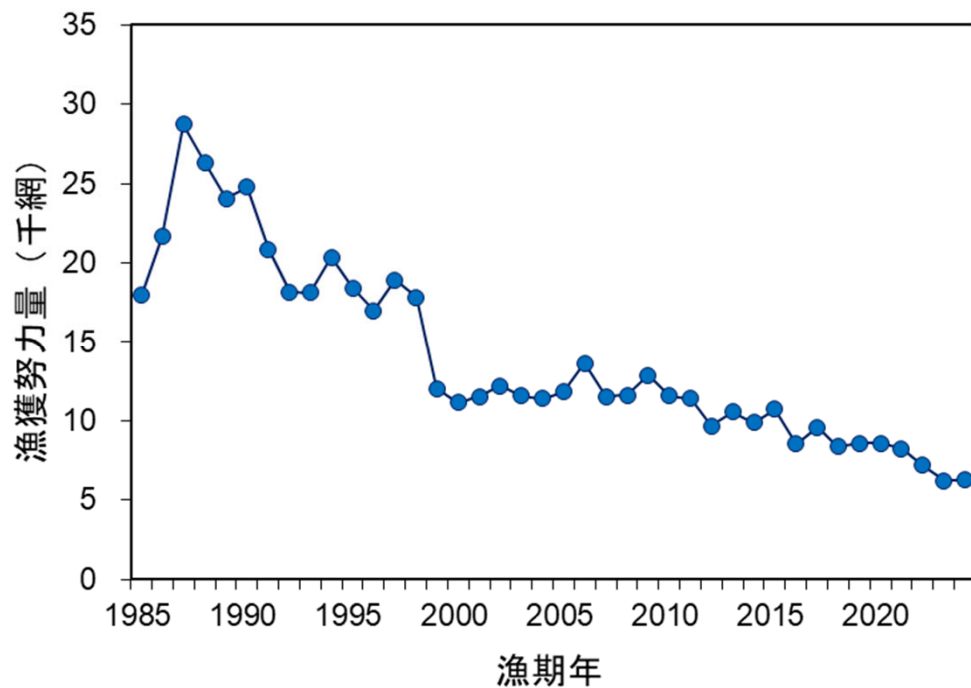
- 本海域と隣接海域のそれぞれに産卵場が散在し、各繁殖群の回遊範囲は基本的に各産卵場を中心として限定されていると考えられる
- ロシア水域との間を往来すると考えられるが不明点が多い

# 漁獲の動向①



- 2016年漁期(4月～翌年3月) から2年連続で急増、2017年漁期は過去最高
- 2020年漁期以降は横ばい傾向で、2024年漁期は6,711トン
- 沖合底びき網漁業(沖底)の占める割合が大きい

# 漁獲の動向②

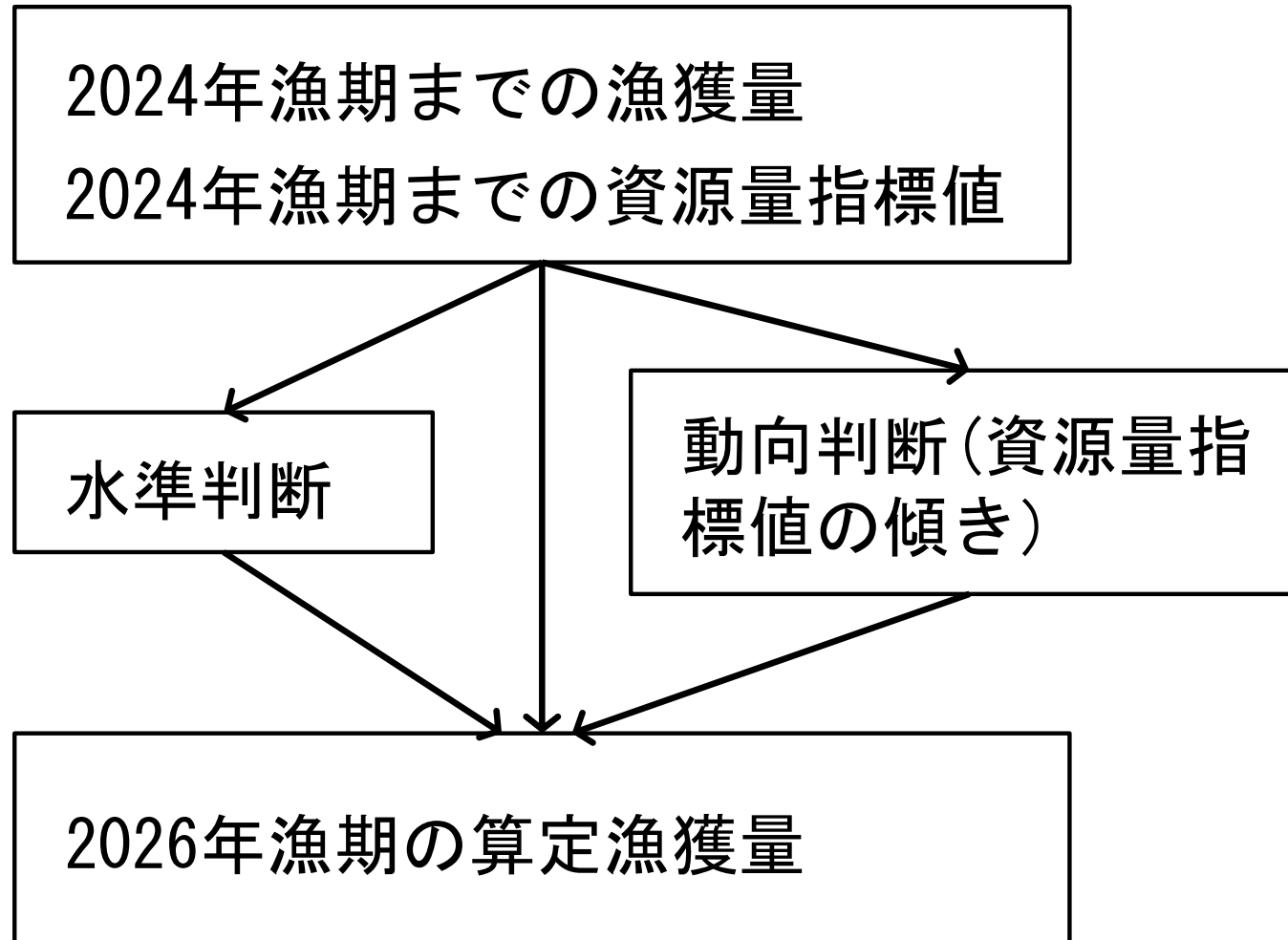


- 沖底かけまわし船の漁獲努力量は1980年代後半から減少  
2024年漁期は6.3千網
- 沖底かけまわし船のCPUEは、2016年漁期から大きく増加
- 2020年漁期以降は横ばい傾向で、2024年漁期は829kg/網

※漁獲努力量：マダラの漁獲があった操業（有漁操業）の曳網回数

※CPUE：マダラの有漁操業の1網当たり漁獲量

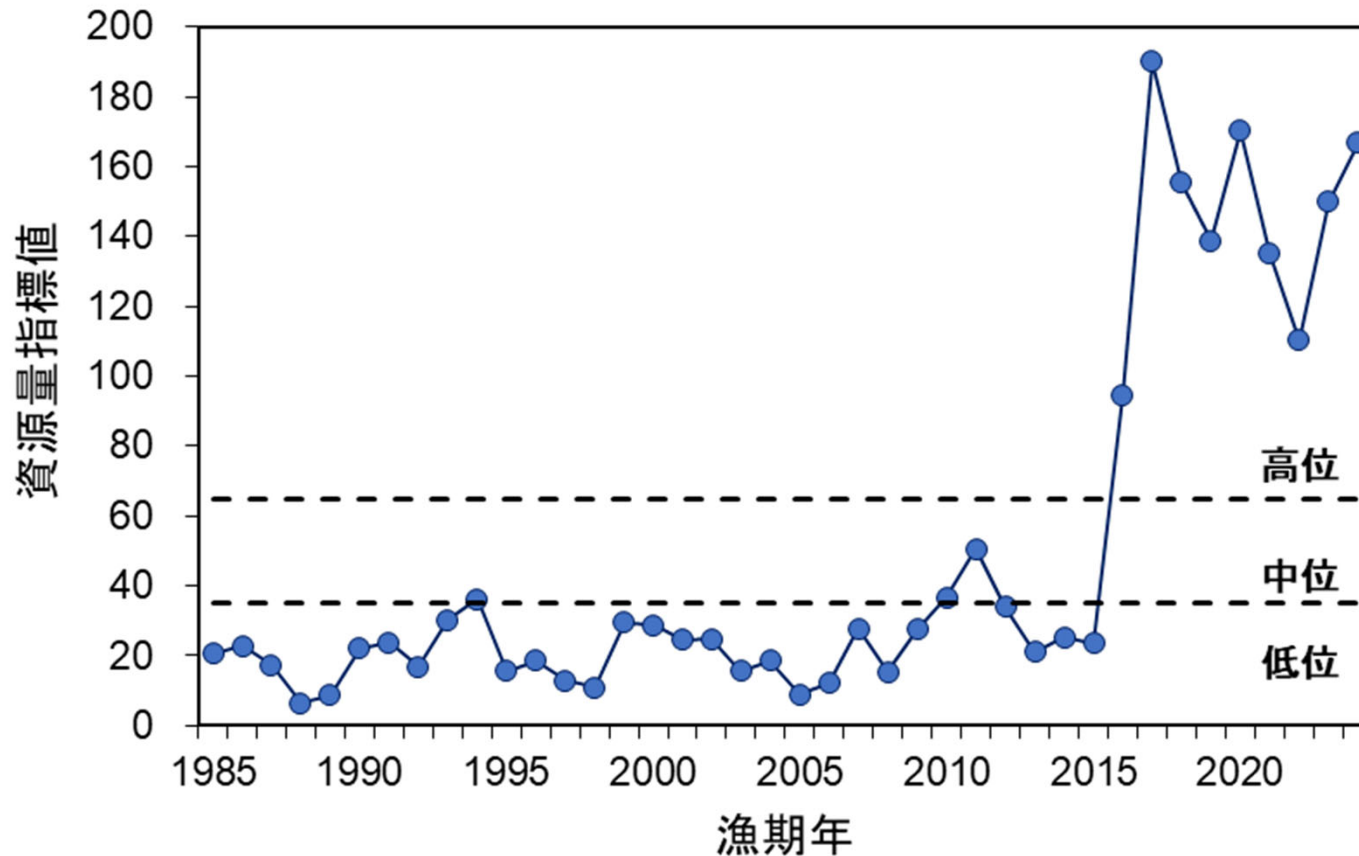
# 資源評価の流れ



日本・ロシア両国により漁獲されるが、分布・回遊に関する情報は少なく、漁獲情報は日本側にほぼ限定される現段階では資源量推定や来遊予測は困難として算定漁獲量を提示

※ 算定漁獲量は漁業法改正前の考え方に基づく基本規則を適用した値

# 資源の動向



※水準区分 低位／中位：資源量指標値35、中位／高位：資源量指標値65  
(1985～2024年漁期の沖底CPUEを平均値が50となるよう規格化し、±15を基準とした)

- 資源量指標値：沖底かけまわし船（100トン以上）のCPUEを規格化して算出
- 資源水準：2024年漁期の資源量指標値は167であり「高位」
- 資源動向：直近5年間（2020～2024年漁期）の資源量指標値の推移から「横ばい」

# 資源評価のまとめ

- 資源水準は「高位」、動向は「横ばい」
- 沖底かけまわし船のCPUEを資源量指標値として、資源水準および動向を判断した

## 2026年漁期の算定漁獲量

管理基準	Target/Limit	2026年漁期 算定漁獲量 (千トン)	漁獲割合 (%)	F値（現状のF値か らの増減%）
1.0・Cave3-yr・1.20	Target	5.5	—	—
	Limit	6.8	—	—

- ロシア水域との「跨り資源」として算定漁獲量を提示
- 漁業法改正前の考え方に基づく基本規則の2-1) により、 $ABC\ limit = \delta_1 \cdot Ct \cdot \gamma_1$ で計算
- $\delta_1$  : 1.0 (高位水準における標準値)
- $Ct$  : Cave3-yr (直近3年間 (2022~2024年漁期) の平均漁獲量)
- $\gamma_1$  : 1.20 (資源量指標値の直近3年間の傾きと平均値で求める係数)